

2022 京都集会「集団づくり」分科会 分散会別提案要旨

【分散会A】

*1 (静岡) 平島幼稚園・八木優花子・4歳児

「楽しさの中で繋がる友だちへの共感」

人間らしく生きる力の形成をねらい、あそびの面白さの追求と豊かな人関係づくりを大切にしている幼稚園。4歳児クラス21名保育者1名。遊ぶ楽しさを共有するなかで、挑戦する姿や「みんな」が嬉しい気持ち、自分と友だちの思いを知っていく姿がそこここに見られた。そのことで、子どもたちにとってクラスがかけがえのない場所になっていく、つまり「集団の発展」が得られることを、誕生日パーティー、プール、忍者ごっこのエピソードから示した提案。

*6 (京都) 綾部ひまわり共同保育園・谷口裕子・4歳児

「子どもの思いを知り寄り添うことから集団へ」

自然豊かな地域で100名超の子たちを受け入れている園の4歳児クラスは、以前の2クラスが1クラスに合体されて持ち上がり担任が不在のもと、多くの子が保育者を「試す」ような行動に出る状況からスタート。言い聞かせようと失敗もしつつ子どもの思いに寄り添いながら「待つ」ことを大切に信頼関係を築こうと懸命の日々。生き物との遊びや小集団でのプール遊びを通して友だち関係が深まり始めた夏頃から、子どもたちとの話し合いで生活のルールづくりができました。「集団」を動かそうと悩んだところから出発し、「個の思いを尊重」しながら「子ども同士の繋がり」に目を向けて集団をつくっていくことを学んだ実践です。

*7 (東京) なかの幼稚園・小林俊介&高橋詩子・4歳児

「年長組に憧れて繋がる仲間とクラスの輪」

2～5歳児11クラス、各クラス担任1名、補助教諭1名、広い敷地に平屋の園舎で、「自分の好きなことをする」場面が多い幼稚園。年中組27名、配慮が必要な子4名。2学期になっても一人遊びが多かったA0、保育者と一緒に作った電車で他児が関わってきてやりとりがうまれ、次に作ったモノレールでは、「ラッピングを手伝って」とみんなに頼むまでに。さらに年長児が作った遊園地に憧れたA0の要求から遊びが広がり、ついにはクラス全体の取り組みに発展し、みんなで楽しんだ実践。

【分散会B】

*3 (仙台) 幼保連携型認定こども園みどりの森・早川陽太郎・5歳児

「一人ひとりの自信から育まれるクラス集団としての力とは ～火起こしから見る子どもの成長する姿の考察～」

5歳児35名、3名の担任のクラスです。子どもたちの多くは新しいことへの不安が大きく、周りへの関心が少なく挑戦したり一歩踏み出したりする姿が弱いクラスの子どもたちでした。長期的に取り組んだ、原始的な「火起こし」へ挑戦の中で、友達同士の関わりが増え、子どもたちの中に全員が成功して欲しいという思いが育ち、達成感を共有できた経験から、一人ひとりの自信と集団の育ちについての実践レポートです。

*9 (北海道) 拓勇おひさま保育園・西尾友希・4～5歳児

「お話あそびと共に育ち合った二十人の子ども達」

定員 90 名 (107 名在籍) 年長組 20 名 (加配児童含む支援の必要な児童 9 名) のクラス。クラスを 2 年間受け持ち、個々に課題を抱えながら、クラスの仲間たちとの日々の中で成長していった子どもたちの実践。4 歳児クラスの時友達同士で起きるトラブルが多く、なかま集団づくりを課題としてごっこ遊びなどの集団遊びに取り組んだ結果、成果が上がった。5 歳児クラスに進級してからは、その延長としてお泊まり会を中心に取り組んだ結果、「心地よい気持ちを共有し、思いを伝えられる仲間」関係を築くことができた。

【分散会 C】

*5 (大阪) ポッポ第 2 保育園・井上みなみ・3 歳児

「認め合える関係になったかもめ組」

3 歳児、20 名 (配慮児 2 名) を担任 2 人 (持ち上がりの保育士はいません) で保育しています。春の頃はトラブルが絶えず、否定の言葉が飛び交っていました。まずは、大人が子ども理解を深めること、本音を出せることを意識して関わりました。そして、一緒にたくさん遊ぶ中で子ども達は変わってきました。また、グループをつくって過ごすことで、友だち理解も深まり、肯定的な言葉で友だちに関わる姿になってきました。グループをつくれれば「集団づくり」になるのではなく、グループでどう過ごすか、関わりをどうつくるかが大切なんだということを学んだ実践です。

*8 (広島) なかよし保育園・西田弥生・2 歳児

「思いが膨らんで響き合うクラスに」

2 歳児クラス、子ども 12 人の実践提案です。絵本からのごっこ遊びなど、友だちと集って遊ぶことの面白さを満喫する子どもたち。その中で、「これがやりたい!」「これで遊びたい!」という一人一人の思いが膨らんでいきます。そして、その思いが表現できる「場」を保育者が大切にすることで、子どもたちにとって集団が居心地の良い場所へと育っていきます。提案者は「そのためには、まずは、みんなが自分の思っていることを自由に言えることが大事だ!」と綴っています。子どもたちの思いが響き合い、集団が変わっていく実践です。

【分散会 D】

*2 (愛知) 公立保育園・阿知波里紗・3 歳児

「子どもの好きなことから友だちとつながるきっかけ作り」

3 歳児クラス (子ども 20 名) の実践。一人ひとりの思いを丁寧に受け止めながら関わる中で、一人一人の好きなものや興味のあるものを探り、クラスの中での安心できる場所、居場所を探してきた。とくに、友だちと一緒に遊びたいという気持ちがいっぱいだけど、なかなか受け入れてもらえなかった S くんをめぐる。保育士が関わり方を知らせていく一方で、クラスで共通のイメージを持って楽しめるようなきっかけ作りをしていくなかで、S くんは自分の好きなもの (電車や宇宙人) から友だちとつながることができ、クラスの中でも遊びが広がっていった。保育者の役割・かかわり方について議論したい。

*4 (佐賀) 林檎の木保育園・谷口桃加・3歳児

「みんなで手を繋ごう～友だちとの関係をつくっていく3歳児こぶた組～」

新入園児5名、在園児8名、計13名の3歳児組の実践です。活動の切り換えが難しく、一人で危ない所や散歩先で人について行ってしまおう在園児のRちゃんと、保育者と話さない目も合わせない給食も食べないで大泣きをする人見知り激しい新入園児の双子のKちゃんとTちゃんが中心ですが、どの子どもも安心して過ごせるクラスづくりを目指して子ども一人ひとりの好きなことや思っていることをたいせつにした取り組みです。あそびや生活、運動会の取り組みなどをとおして、子ども同士が気づき、つながりあっていく姿を提案します。

*10 (熊本) 保育園ころこ・久連松かなえ・4歳児

「涙と共に成長するいずみちゃん」

4歳児25名担任3名、看護師1名のクラス。療育に通っている5名も0,1歳児クラスから一緒に、認め合っているクラスの姿がある。そんな支援が必要な子どもたちの陰に隠れ目立たないが、友達に言われるがままで主張も少なく、新しい取り組みなどいつも泣いていたいずみ。お泊り保育、運動会へ仲間と共に取り組む中で、怖さ恥ずかしさの涙からいずみの涙は変わっていく。担任との関係づくりから、気を許せる友達へと少しずつ丁寧に関係を作っていった実践。